

2026年春号

ひのたにえん

副園長 森嶋友里子

一年が
早くなったんじゃない

わたしたちが
それだけ
長く生きてきた
ということ



利用者の方とお話をしていると、「一年が本当に早くなりましたね」という言葉をよく耳にします。若いころに比べて、年を重ねるほど時間が早く感じる。これは心理学では「ジャンナーの法則」と呼ばれ、人生の中で一年が占める割合が小さくなるためだと言われています。

たしかに、気がつけば季節は巡り、あっという間に一年が過ぎていきます。

けれども、ひのたに園での出来事を思い返していると、一年前のことなのに、もっとうっと前のことのように感じる場合があります。

皆さんと一緒に笑った時間、行事でにぎやかに過ごした日、廊下で何気ない立ち話をしたひととき。そうした時間は、ただ過ぎていくのではなく、心の中にゆっくりと積み重なっていくからかもしれません。

最近では、人や活動と前向きに関わることを「エンゲージメント」と呼び、心の元気や生活の充実につながる大切なものだと言われています。

誰かと笑うこと、同じ時間を過ごすこと。その一つひとつは小さな出来事ですが、振り返ったとき、かけがえのない思い出になります。

一年はあっという間。
でも、その中にはたくさんの笑顔があります。

これからもひのたに園で、皆さんと一緒に、そんな大切な時間を積み重ねていきたいと思えます。

glow
社会福祉法人グロー

滋賀県蒲生郡日野町121番地

0748-52-0645

文化祭

Hinotanievent

11月6日(木)、今年は万博イヤーという事もあり『万博』をテーマに文化祭が実施されました。世界の文化や食、芸術に触れられるような催しを企画し盛り上がりました。準備段階から「オリジナル国旗」のデザインやアート作品の募集を行い、たくさんの作品が会場には飾られました。食事では小籠包を蒸し器から提供したり、喫茶ではトルコアイスを用意し、職員のトルコアイス屋のようなパフォーマンスもあり、見ても食べても楽しめる食事の時間になりました。アトラクションでは様々な国に関するスタンプラリークイズを行い、参加者は「どちらだと思う?」「こっちかな?」と悩みながらスタンプラリーを巡りました。万博には遠くて行けないけど、少しでも雰囲気味わえた文化祭になったのかなと思います。(玉木)



クリスマス会



「ジングルベル・ジングルベル・鈴が鳴る〜♪ 今日楽しいクリスマス」利用者の皆さんがツリー、イルミネーションを飾ってくれ、ひのたに園にもクリスマスがやってきました。いくつになってもクリスマスはワクワクしますよね。25日はクリスマス会を開催!ひのたに園にもサンタクロースがやって来ました。「クリスマスケーキが食べたい!チキン、お寿司が食べたい!」という利用者の皆さんの食べたい希望が全部叶った1日。チキンもケンタッキー風に工夫してくださり大好評!そして恒例のビンゴゲームも大盛況!!景品が当たった人にも当たらなかった人にも、最後には斎藤園長サンタクロースからプレゼントを受け取り楽しい1日を過ごされました。(村上)



ぴかっ to アート展

今年度もぴかっ toアート展に応募しましたところ、三家外史雄氏の陶芸作品『ねこか いぬか きつね』が審査員特別賞に選ばれ、他の利用者の方々と一緒に見に行きました。たくさんの作品が並んでおり、ゆっくりと鑑賞ができました。三家氏は授賞式にも参加され、三日月知事も握手を交わされ、また一緒に行った他利用者の方からも祝福をもらい、とても喜んでおられました。三家氏は昨年も陶芸作品がぴかっ toアート展で入賞に選ばれ、大きくどっしりした作品が魅力です。いつもアトリエセラミカの陶芸活動で人の顔や建物を多く作られ、丁寧に細かいところにもこだわって制作されています。この受賞を受けて、今後の陶芸活動の励みになったかと思います。(川島)



人生いろいろ

正面からは恥ずかしいとのことで、お雛様を見ておられるところをパシャリ。「うん、これでいい。」と写真に満足気。



「ニコっと笑ってくれることが嬉しい、
心を開いてくれることが嬉しい。」

慎さん

福祉の業界で長く活躍されていた慎さん。そんな慎さんに福祉業界の魅力を語ってもらいました！

＞慎さんは福祉の仕事経験があると聞きましたが、いつからされているのですか？

30歳過ぎてから始めました。最初の職場は知的障がい者の入所施設の支援員でした。利用者さんは皆明るくて素直でした。福祉業界に入る前は事務仕事をしていました。

＞その職場に出会ったきっかけは何ですか？

子どもが保育園に通っていた時に、保育園を運営している法人が障がい者施設も運営されていて紹介して下さって入職しました。当時住んでいた地域が主催で町の人も参加している保育園での夏祭りに施設の利用者さんも参加されていたので顔を合わせることもありました。利用者さんが私の子どもも含め夏祭りの時には園児と遊んでくれていました。

＞初めての福祉業界となると少し緊張されたのではないですか？

そんなことはなかったです。私の親戚に難聴の子がいたので未知の領域って感じはなかったです。私の身の回りに福祉が溢れていたように思います。

＞今までどのような仕事をしてこられましたか？

入所施設をやめた後に認知症に興味があってヘルパーの初任者研修を受けて認知症のグループホームに転職しました。でも夜勤とかでは利用者さんがぐっすり眠ることがなくハードな環境だったので体を壊したので辞めました。次にヘルパーをしましたが性に合わず、グループホームの支援員に異動してそこがとても楽しかったです。

＞“高齢”と“障害”領域で働いてこられた慎さんですが、福祉の魅力はなんですか？

どちらの仕事でも「ありがとう」って言ってもらえるところですかね。障害者施設で働いていた時は特にニコツとしてくれた時が嬉しい、心を開いてくれることが嬉しい。利用者さんは初めは抵抗されることが多いんですが段々と一緒に取り組むことができるようになるんです。利用者さんの中には言葉が出にくい方がいるんですが、言葉の代わりに行動で思いを伝えてくれるんです。だから私は福祉の仕事が続けていきたいなって思ってます。(聞き手・文 藤井)

「配管の仕事は特によかったと立石さん」

「生活に欠かせないところに関わって
いるという実感がありました。」

立石直喜さん

さまざまな仕事を経験してきた立石さんに、やりがいを感じながら
働いてきたこれまでにについて伺いました。



＞立石さん今までいろいろな職業を経験されてきたとお聞きました。

はい。高校を卒業して電気屋さんもしたし、大工、映写技師、配管工とか、いろいろやりましたよ。

＞電気屋さんは家電の販売店ですか。

昔ながらの町の電気屋さんです。配達もするし、取り付けもするし、修理の依頼もありました。屋根に上がってアンテナを立てて、下の人がテレビの映りを見ながら「もうちょっと右」「もうちょっと回せ」と指示するんです。今思えば、怖い仕事でしたね。

＞映写技師って映画館で映写機を使うお仕事ですよね。

そうですね。ただ今とは全然違います。昔は一本の作品を何本かのフィルムに分けていたので、映写機を二台使って、片方を回している間にもう片方を準備して、切り替えながら上映していました。僕がいたのは東映系の映画館でしたが、福岡市内に四館あって新作フィルムを共有していました。一本が終わると、運ぶ専門の人が次の映画館へ持っていきます。

＞配管工だったときは、どんな仕事をされていたのですか。

いわゆる宅内下水の工事ですね。自分で考えて進められる仕事だったので、そこが合っていました。やりがいもおおきかったですね。生活に欠かせないところに関わっているという実感がありました。昔のトイレから新しいものになると、お客さんの反応も大きいですからね。配管自体は見えないけれど、トイレの器具や使い勝手の変化は目に見えるので、とても喜んでもらえました。(聞き手・文 北岸)

「天高く」ひのたに太鼓青龍 5周年記念コンサート

1月18日（日）日野町 町民会館わたむきホール虹 ふれあいホールにて活動5周年記念イベント「天高く」を開催させて頂きました。堀江日野町長はじめ、この5年の活動のなかでお世話になった小佐治すいりょう太鼓さん、おさらぎ二胡教室のみなさん、サンポーニャサークルさん、そして活動立ち上げ時、講師としてご指導下さったプロ和太鼓奏者青沼保人先生をお招きし、多くの方にもご来場頂き、記念すべきよいイベントとなりました。またコーヒー入れ隊（まつぼっくり）さん、渋味会さんのご協力を頂き、来場者のみなさんへ温かいコーヒーの提供も叶いました。この5年でレパートリーは7曲に！一時期はメンバーも減り活動の継続が危ぶまれたこともありましたが、何とか踏ん張りここまで続けることができました。地域のイベントにも呼んで頂くようになり活動も広がりました。これまでご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。そしてこれからもお世話になります！よろしくお願ひ致します。（横川）



小川屋さん

長年日野町でお店を続けて来られ、お世話になっている小川屋さんが3月で閉店されることとなりました。小川屋さんの創業は江戸時代からと清一郎さん、ちはるさんご夫婦からお話を伺いました。

小川屋さんとひのたに園との関わりは、ひのたに園の創立時からになります。当時の園長からの依頼で食事に使う食材を平成27年頃まで納めて下さっていました。また、25年ほど前からはたくさんの商品を持って月に1度菓子売店として来て頂いておりました。ご夫婦とも優しく気さくに皆さんに話しかけて下さり、楽しい時間を過ごさせて頂きました。今回店の設備の老朽化、ご年齢などの理由で今月をもってお店を閉じられるご決断をされました。今後は「店の片付けやな」とご主人はおっしゃっていましたが、「日曜日に出かけたい」とご希望をお話しして頂きました。これからはご夫婦で自由な時間を過ごして頂きたいと思います。最後の菓子売店3月7日に簡単ではありますがありがとうございますの会場の場を設けさせて頂きました。皆さん感謝とさみしさで涙ぐむシーンもありましたが素敵な会になったかと思ひます。（高田）

